八幡さまの石段

今坂柳二（文・イラスト）

この間のことだ。町に買い物にいく用事があってな、
八幡さまに行ってみる気になった。
みんなが知ってのとおり、あのお宮は山の上だいな。
んで、エッチラオッチラ石段を登った。
あ、エッチラじゃなかった、
一つ、二つ、三つ・・・二十一、二十二・・・
ようやっと途中にある踊り場に着いた。
みんながよ、ここまで幾段あんか知ってんかい？
石段の数より息をすんのがやっとだってかい。
そんなら教えんけんど、二十四段あるんだ。わしの話で、
二十四段は大事な数だからよく覚えておくがいい。
ようやく息がおさまったんでまた登りだした。
息が苦しいだの膝がガクガクするだの、
言っちゃあおれんのだ。三十段、四十段、
セミのやつがうるさい程、鳴きわめいとるが、まあいい。
石段登りの応援歌だと思えばいいんだ。
それ、四十五、四十六、もう少しでてっぺんだい。
肩で息してるおらを見た神主さんが言われた。
「昨今、クルマで乗りつけるお方ばっかりなのに、
あんたは石段を登ってこられました。きっとご利益がありますぞ。」
おらは言ったい。「ご利益もけっこうだが、おたずねしたいことがあります。
この階段は下から踊り場まで二十四段、そこからお宮まで四十七段、
この数にはあにか訳があるんですかい。」
「おう、いいところに気づかれましたな。わしらが八幡さまの石段には大事な意味が隠されておりましてな。登り始めの二十四段は、中国に伝わる孝行の教えで二十四孝というのがあります。また踊り場からの四十七段は有名な元禄の忠臣蔵、大石良雄ら四十七士の業績を来世まで伝えようとする数でありますよ。」
う〜ん、八幡宮も立派じゃが、この石段にこんな教えが隠されておったとは。
皆さん、ご存知だったかね。

いまさかりゅうじ：狭山市笹井在住。24 歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下 9 冊発行。

常任理事会便り

今年度の定期総会も無事終了、新役員による活動が始まりました。最初の課題は芸術祭の企画案検討です。企画公演を「音楽祭」とすることはこれまでの理事会で決定していますので、具体的内容の立案、また芸術祭全体のテーマや実行委員長候補者の検討を行いました。キーワードは「高麗郡建郡1300年記念」。どのような芸術祭になるのかお楽しみに。

小川事務局長